

**地域提案型**

**平成22年度 採択内定案件**

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 国名	フィジー
2. 事業名	フィジーを中心とした大洋州における志布志市ごみ分別モデルの推進
3. 事業の背景と必要性	志布志市は廃棄物管理では焼却炉を作らず分別して埋立ごみを減らすという施策を行っており、2000年から19品目での本格的な分別収集を開始した。焼却炉を持たずにごみの減量化に成功した志布志市の施策は、経済的・技術的な理由から焼却炉の導入が困難である大洋州諸国にとって2008年から開始された技術協力プロジェクト「フィジー国減量化・資源化プロジェクト」での持続的な廃棄物管理のモデルとなった。今後、廃棄物減量化・3R (Reduce・Reuse・Recycle) をさらに大洋州全体に普及して行くため、フィジーでの3Rの定着を図り、同国を基点とした大洋州のミクロネシア連邦、ソロモン及びバヌアツの廃棄物管理の改善が求められている。
4. プロジェクト目標	フィジー国ラウトカ市とナンディ町における廃棄物の分別排出・収集・運搬・処理のシステムを確立し、その成果がフィジーの他の自治体およびミクロネシア連邦、ソロモン及びバヌアツへ波及される。
5. 対象地域	フィジー、ミクロネシア連邦、ソロモン及びバヌアツ
6. 受益者層 (人数規模)	直接受益者：対象国の廃棄物行政・管理職員、住民リーダー 間接受益者：対象国の一般住民
7. 活動及び期待される成果	<p>&lt;成果&gt;</p> <p>1) フィジーでの志布志モデルの指導者の育成。2) ラウトカ市・ナンディ (ラ市・ナ町) の職員及び市民の「混ぜればごみ分ければ資源」の意識改革。3) ラ市・ナ町での市民及び収集運搬業者による分別排出の工夫の習得。4) ラ市・ナ町での生ごみの分別収集・堆肥化。5) ラ市・ナ町での資源化の増加。6) ラ市・ナ町での埋立処分量の減量。7) ラ市・ナ町での埋立処分場が衛生面の改善。8) フィジー国各自治体廃棄物担当者の分別による埋立ごみの減量の「気づき」への変化。9) ミクロネシア連邦、ソロモン及びバヌアツの研修員の意識改革および各国の廃棄物管理能力の改善。</p> <p>&lt;活動&gt;</p> <p>1) 対象4か国の先方住民リーダーの志布志市での研修。2) フィジーでの各自治体廃棄物管理担当者の研修会実施。3) ミクロネシア連邦、ソロモン及びバヌアツの廃棄物行政担当者の参加のもとでのフィジーでのパイロット地区での現地検討会の実施。</p>
8. 実施期間	2011年6月～2014年3月
9. 事業の実施体制	1) 志布志市職員：契約主体、事業実実施主体、研修管理 (契約、財務等) 及び報告 2) 分別収集事業者、堆肥化事業者及び志布志市民：志布志モデルの取り組み、分別収集、家庭における分別排出についての工夫、生ごみと草木剪定枝の堆肥化
<b>II. 応募団体の概要</b>	
1. 団体名 (提案自治体)	志布志市
2. 対象国との関係、協力実績	2007年8月、中央環境審議会志布志市の取り組みの発表を契機としてJICAの訪問を受け、開発途上国への志布志モデルの紹介・導入への協力を依頼。その後、国内支援委員を委嘱。同年11月にフィジー国ラウトカ市とナンディ町を訪問。 2009年6月には、国別研修「大洋州廃棄物管理ワークショップ」の一環として大洋州諸国の廃棄物行政担当者を志布志市に受け入れ。 2010年5月に中間評価で再度フィジー国ラウトカ市とナンディ町を訪問。